

平成 30(2018)年度なし生育診断予測事業速報 第 4 報

平成 30(2018)年 6 月 8 日

経営技術課

1 気象経過

2 月までの冬期は平年並みから低い気温で推移した。3 月になると平年より気温がかなり高く経過し、降水量は多かった。4 月上旬に最低気温が平年より低い日があったが、4 月の気温は 3 月に引き続き高いまま経過した。降水量は平年より少なかった。5 月の平均気温は、上旬で平年並みだったが、中旬以降高く経過し、日照時間も平年を大きく上回り、降水量は平年並みだった。

2 開花期

本年のなしの開花は、幸水では県南地区の開花始めが 4/6 と、平年に比べ 10 日早くなった。県央及び県北でも同様の傾向となり、県全体では平年に比べ 10 日早い開花始めだった。開花盛りも同様に 10 日ほど早く、県南で 4/9、県央 4/14、県北 4/15 だった。

豊水は、幸水と同様に開花が早まり、県南地区で 4/4 に開花始めとなり、県全体では平年に比べ 8 日早かった。開花盛りも県南 4/7、県央 4/12、県北 4/13 と平年に比べ 8～9 日早かった。

3 満開後 40 日までの果実肥大状況

(1) 幸水の肥大は、満開後 30 日の果実横径が農試で 22.2 mm (平年比 97 %)、栃木市で 22.4mm (同 101 %)、那須烏山市で 19.5mm (同 93 %) と平年並み～やや小さかった。果実縦径はほぼ平年並だった。満開後 40 日の果実横径は、農試で 28.6 mm (同 98 %)、栃木市で 28.0mm (同 97 %)、那須烏山市で 26.6mm (同 100 %) といずれも平年並みだった(第 1 表、第 3 表)。

(2) 豊水の果実肥大は、満開後 40 日の果実横径が農試で 27.3 mm (平年比 93 %)、栃木市で 26.9mm (同 94 %)、那須烏山市で 24.5mm (同 96 %) と平年より小さかった。果実縦径は、平均で 25.1 mm (同 96 %) で平年よりやや小さかった(第 2 表、第 4 表)。

4 果実肥大予測

(1) 幸水の収穫時における果実肥大予測は、県全体の果実横径で 89.5 mm、平年比 94 % と平年をやや下回り、果重では 392g、平年比 93%と平年を下回る予測である。

収穫予測は、収穫始めが栃木市で 8 月 4 日(平年比－10 日)、県平均で 8 月 8 日(平年比－10 日)であり、収穫盛りが栃木市で 8 月 12 日(平年比－10 日)、県平均で 8 月 17 日(平年比－10 日)であり、平年より早まることが予測される(第 1 表)。

(2) 豊水の収穫時における果実肥大予測(農業試験場)は、果実横径が平年比 91 % の予測となっている。また、収穫期予測は、収穫始めが県平均で 8 月 29 日(平年比－9 日)、盛りが 9 月 7 日(平年比－11 日)である(第 2 表)。

第1表 幸水の果実横径と収穫予測(mm、%)

(農業試験場)

	満開後30日		満開後40日		収穫予測			
	本年	平年	本年	平年	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
那須烏山市	19.5	21.0	26.6	26.6	86.6	336	8月11日	8月17日
	93	-	100	-	97	96	-9	-11
農業試験場	22.2	22.9	28.6	29.3	91.6	435	8月10日	8月22日
	97	-	98	-	92	91	-12	-10
栃木市	22.4	22.1	28.0	28.7	90.2	405	8月4日	8月12日
	101	-	97	-	94	93	-10	-10
平均値	21.4	22.0	27.7	28.2	89.5	392	8月8日	8月17日
	97	-	98	-	94	93	-10	-10

注 満開後30日及び40日の上段は実測値、下段は平年比。

収穫予測の上段は予測値、下段は平年比。

予測値は参考データとする。

第2表 豊水の果実横径と収穫期予測(mm、%)

(農業試験場)

	満開後40日		収穫予測			
	本年	平年	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
那須烏山市	24.5	25.4			9月2日	9月10日
	96	-			-8	-9
農業試験場	27.3	29.2	97.2	520	8月28日	9月10日
	93	-	93	91	-12	-11
栃木市	26.9	28.6			8月28日	9月2日
	94	-			-7	-13
平均値	26.2	27.7			8月29日	9月7日
	95	-			-9	-11

注 満開後40日の上段は実測値、下段は平年比。

第3表 幸水の果実縦径(mm)

	満開後30日		満開後40日	
	本年	平年	本年	平年
那須烏山市	17.9	19.0	23.5	23.9
農業試験場	20.4	20.2	25.0	25.6
栃木市	19.5	19.6	25.3	25.0
平均値	19.3	19.6	24.6	24.8
	98	-	99	-

第4表 豊水の縦径(mm)

	満開後40日	
	本年	平年
那須烏山市	23.1	24.2
農業試験場	26.6	27.2
栃木市	25.6	27.1
平均値	25.1	26.2
	96	-

5 今後の栽培管理

(1) 着果管理(仕上げ摘果)

仕上げ摘果は、果実の形状・大きさ等を確認し、着果数や果実肥大状況、樹勢等をよく確認しながら進める。

(2) 新梢管理

えき花芽の着生を促進するためには、7月上旬頃に予備枝を中心に新梢が45°と

なるよう誘引することや予備枝へのスコアリングが有効である。着果の少ない長果枝からの飛び出しが多い場合は、必要に応じて摘心処理を行う（葉数確保が必要な樹は、不必要な芽かきや摘心は行わない）。

主枝・亜主枝の不定芽から発生した新梢を過度にせん除すると樹勢を弱めるため、最低限とする。

(3) 病虫害防除

病虫害は、樹勢が低下することによって発生が助長されるため、農薬に頼るだけでなく健全な樹づくりを心がける。

芽基部等での黒星病の発生は、現在のところ少ない状況であるが、葉柄及び果実での発生が確認されている。梅雨に入り、降雨後曇天が続くなど、本病菌の感染に適した状態が続く時期になるので、計画的な防除を行う。また、病斑が確認された葉や果実等は、速やかに取り除き、ほ場外で適正に処分する。

長期間降雨が続く場合は、少雨時に薬剤散布を行い、長期間無防除にならないようにする。

特に豊水以降の品種では、多雨により輪紋病の発生が懸念されるため、雨量が多い場合は防除に注意する。

なお、治療効果が高い QoI 剤や DMI 剤は、スピードスプレーヤーの速度を落とし薬液が葉などに十分かかるよう散布する。

カメムシ類の発生は、トラップへの誘殺数がやや多く、今後気温が高いことが予想されていることから発生状況に十分注意し、園内をよく確認する。発生が確認された場合は、夕方又は早朝に防除を実施する。多目的防災網の網目が大きい場合（9mm 目のラッセル網等）は、ほ場外から進入するので、カメムシ類が好む杉類・核果類（さくらを含む）・ゆず・桐等が周辺にある場合は特に注意する。

薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守し、空き容器等は適正処理を励行する。

(4) 果肉生理障害対策について

例年、果肉生理障害の発生が多いほ場では、軽減対策として、薬剤防除と同時に 7 月下旬までカルシウム剤を散布することが有効である。また、降雨が続く場合は、排水のため明きよを設置し、根の活動低下を防止する。

(5) 梅雨時期の土壌管理

園内で滞水しやすい場所に排水路を設置するなど、湿害対策を行う。

高温・干ばつが続く場合は草刈りを行い、水分競合を防ぐ。適宜かん水を行う。

(6) 降雹害対策

5 月から 7 月にかけて、雷雨に伴う雹害が発生しやすくなるので、多目的防災網を点検し、修繕等は早めに行っておく。